



平岡織染株式会社  
Environmental report2019  
環境報告書 2019

# 目次

1. ごあいさつ	3
2. 会社概要	4
3. 編集方針	4
4. 環境基本方針	5
5. 環境中期計画	6
6. 環境保全活動の歩み	7
7. 環境負荷の全体像	8
【事業活動における環境負荷】*2018年度実績	
8. 環境負荷低減への取り組み	9
【PRTR 対象物質への取り組み】	
【大気汚染防止への取り組み】	
【水質汚濁防止への取り組み】	
【二酸化炭素排出量削減への取り組み】	
【産業廃棄物削減への取り組み】	
9. 環境対応製品	12
【タングステン放射線遮蔽防水膜材：シールドマックス®】	

# 1. ごあいさつ

---

平素より弊社への格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

2015年にパリで開催されたCOP21で、12月12日に採択された「パリ協定」では、①世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をする。②そのため、できるかぎり早く世界の温室効果ガス排出量をピークアウトし、21世紀後半には、温室効果ガス排出量と森林などによる吸収量のバランスをとる。という二つの長期目標を挙げています。また、それまで先進国だけが対象国だったのを途上国を含めた全ての主要排出国が対象国としました。批准した国は、パリ協定に基づく長期戦略を示す必要があります。日本も例外ではなく、政府は、G20に向けて、今年6月11日に「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略（以下長期戦略とする）」を閣議決定しました。

長期戦略では、最終到達点として「脱炭素社会」をあげ、それを今世紀後半のできる限り早く実現することを目指すとともに、2050年度までに温室効果ガスを80%削減することを目標にしています。

2015年には、国際社会共通の目標である「持続可能な開発目標」（SDGs：17のゴールと169のターゲット）を中核とする「持続可能な開発のための2030アジェンダ」がニューヨーク・国連本部で採択されています。2015年に採択された「パリ協定」と「SDGs」は、私たちを含めた事業を永続的に続けていく企業にとって重要な長期目標となります。

そこで、弊社でもできることが2つあります。ひとつは高い耐久性を持つ付加価値のある商品の開発。もうひとつは資源投入量の最小化、つまり省資源化への取り組みです。

弊社では、これらの目標を推進するため、エネルギーの有効活用を目的としてガスコージェネレーションの導入や高効率ボイラへの更新を行っています。

これからも、省資源化に積極的に取り組み、地球環境への負荷低減を目指してまいります。



代表取締役社長 平岡 利文

## 2. 会社概要

---

名 称	平岡織染株式会社
社 長	平岡利文
資 本 金	48,438千円
売 上 高	9,688,905千円(2019年3月期)
創 業	明治35年8月(1902年)
会 社 設 立	昭和10年2月(1935年)
本 社	東京
支 店	大阪
事 業 所	草加事業所(埼玉県)、滋賀ターポリン工場*(滋賀県)

\*ターポリンは以下(夕)に省略して記載する。

## 3. 編集方針

---

**【報告書の対象期間】**

対象期間 2018年4月1日～2019年3月31日

**【報告書の対象範囲】**

本社、支店、2事業所(草加事業所、滋賀(夕)工場)

## 4. 環境基本方針

平岡織染株式会社は、繊維素材をベースに様々な合成樹脂と組み合わせることで、機能的で使いやすい製品を製造、提供しております。機能性や特性を重視する建築、土木、車輛といった産業分野やデザイン性や嗜好性が求められる店舗、スポーツ、レジャー用品など、幅広い分野でご利用いただいております。

私たちは、企業が成長し続けるためには、企業活動に伴って発生する環境への負荷を最小限に留めることが最も重要であることを認識しております。

事業活動、製品、サービスから生じる環境への負荷を的確に捉え、技術的そして経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定し、汚染の予防の継続的な維持・改善に努め、環境の保全と向上を図るため、次の施策を推進します。

1. 事業活動は環境、健康、安全に留意し、汚染予防に最善を尽くします。特に、製品の製造に伴い使用する化学物質等の取り扱い及び管理の適正化に努めます。
2. 環境に関する各条令を遵守するとともに、自主基準、規定などを整備し、管理の一層の向上に努めます。
3. 省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の減量化などに積極的に取り組みます。
4. 環境に配慮した研究、開発、設計を行います。
5. 社員に環境教育を実施し、環境保全意識の向上に努めます。
6. 「環境基本方針」は、関連協力会社に周知すると共に外部からの要求に応じて提供します。



2019年1月導入 滋賀(夕) 高効率熱媒ボイラ

## 5. 環境中期計画

弊社では、第三次中期計画の未達成状況と、近年の弊社における生産環境を勘案し、2018年7月に第四次の中期計画を策定。2017年度の実績データを基準として、達成年度を2020年度と定め、次の二つの改善目標の掲げて、取り組みをスタートしました。初年度の結果は、残念ながら何れの目標も達成することが出来ませんでした。

【達成目標年度：2020年度】

二酸化炭素原単位排出量 : 3.0%削減 ⇒ 5.8%増加(目標未達成)

産業廃棄物原単位処分量 : 3.0%削減 ⇒ 10.3%増加(目標未達成)

尚、草加事業所では2015年度からスタートした埼玉県地球温暖化対策推進第二次計画期間(2015～2019年度)における目標値は、二酸化炭素基準排出量(2002～2004年度の平均値5,833t-CO<sub>2</sub>)の13%削減です。2018年度の実績は16.8%の削減となり、4年連続で達成することができました。引き続き、二酸化炭素排出量の削減に努めて参ります。



2019年3月導入 ガスコージェネレーション

## 6. 環境保全活動の歩み

2002.12	滋賀（タ）工場が滋賀県の「大気環境負荷低減計画実施事業場」証明書受理
2003.03	草加事業所が埼玉県の「彩の国エコアップ宣言書」受理
2004.10	草加事業所にガスコージェネレーション（550kW）を導入設置、稼働開始
2006.08	草加事業所に蓄熱式排ガス浄化装置（150m <sup>3</sup> /分）を導入設置、稼働開始 ※ VOC 大気放出量の大幅削減に貢献
2008.11	滋賀（タ）工場の重油焚きボイラ 3 基を高効率のガス焚きボイラに更新し、同工場の重油使用を全廃
2009.03	滋賀（タ）工場にCO <sub>2</sub> 排出量の削減のため、新熱処理機を設置
2009.04	環境への取組を強化するため、「環境連絡会議」を設置
2010.12	草加事業所の重油焚きボイラ 2 基を高効率のガス焚きボイラに更新し、全社の重油使用を全廃
2011.03	滋賀（タ）工場、新熱処理機の本格稼働開始
2012.05	滋賀（タ）工場、湿式電気集塵機（排煙処理装置）追加設置・稼働開始
2013.05	滋賀（タ）工場、脱臭装置新規設置・稼働開始
2014.10	草加事業所の蛍光灯全てを LED タイプにリニューアル開始
2015.04	草加事業所に高効率型ロールコーターを導入設置、本格稼働開始
2016.08	草加事業所の蒸気ボイラー（ガス焚き）を高効率型に更新、稼働開始
2018.03	滋賀（タ）工場の帆布熱処理炉を熱媒加熱式高効率型（臭気低減タイプ）に改修
2018.07	滋賀（タ）工場の照明器具全てを LED タイプにリニューアル開始
2018.09	草加事業所の排水処理施設を最新型加圧凝集浮上設備へ更新
2019.01	滋賀（タ）工場の熱媒ボイラ（ガス焚き）を高効率型に更新、稼働開始
2019.03	草加事業所のガスコージェネレーション（550kW）を 700kW タイプに更新、稼働開始



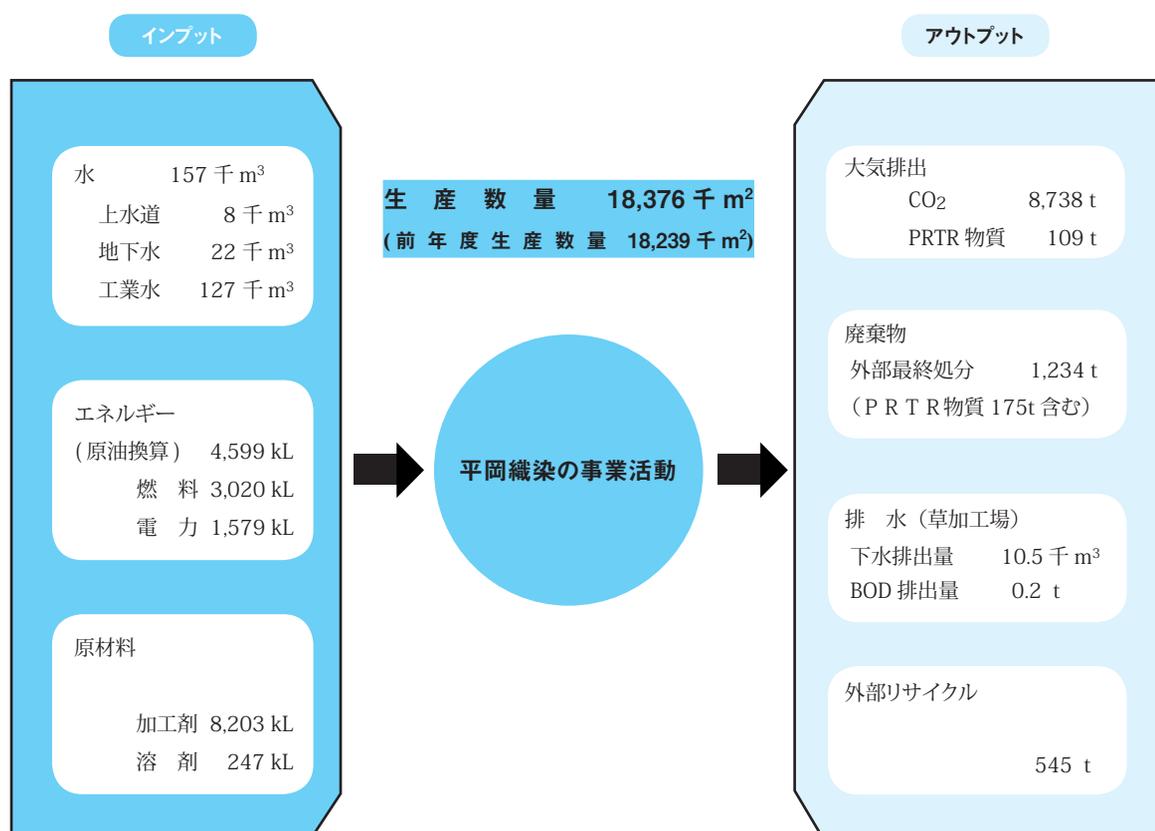
2018年9月導入 最新型加圧凝集浮上設備

## 7. 環境負荷の全体像

### 【事業活動における環境負荷】\*2018年度実績

弊社は、その事業活動において排ガス、排水、廃棄物等、様々な環境負荷の実態を正確に把握し、低減に努めています。

2018年度の事業活動におけるインプットとアウトプットは、下図のとおりとなっています。



## 8. 環境負荷低減への取り組み

### 【PRTR 対象物質への取り組み】

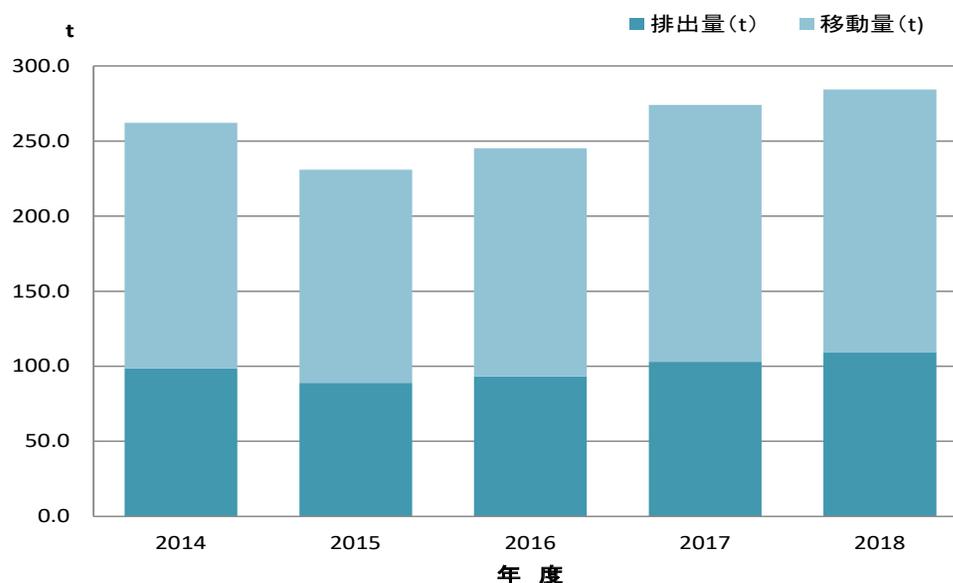


図8-1 PRTR 届け出排出量

2018年度は前年度と比較して排出量が6.1%増加し、移動量が2.3%増加しました。移動増加の主な要因として、年度末に長期保管在庫品を一斉に廃棄したことと、環境規制に対応すべく主要原料の切り替えに伴い、不要となる資材を処分したことが挙げられます。

### 【大気汚染防止への取り組み】

SO<sub>x</sub>（硫黄酸化物）排出量は、ボイラ燃料の完全ガス化（A 重油全廃）により、2011年1月からゼロとなっています。

ばいじん排出量も、都市ガスへの燃料転換による効果で、極めて低い水準で推移しています。

### 【水質汚濁防止への取り組み】

工場排水を行っているのは、染色を行っている草加工場のみです。工場排水を行っていない滋賀（夕）工場は水質汚濁防止法には該当しません。従って、対象となる草加工場のみ水質汚濁防止への取り組みを行っております。

2018年度は染色排水量が激減したことと、排水処理施設の最新型加圧凝集浮上設備への更新により、BOD排出量が極端に減少しています。今後も草加市下水道条例で定める下水排除基準に適合した水質維持に努めて参ります。

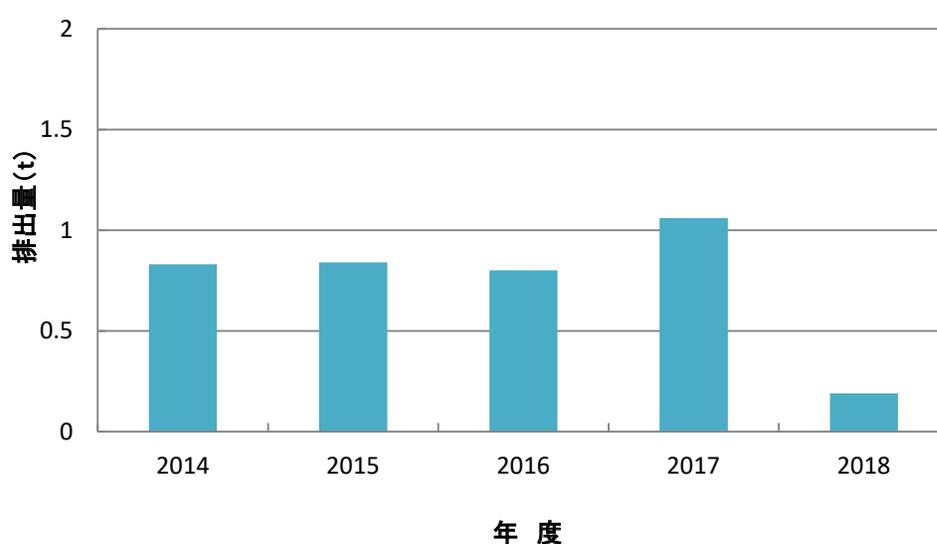
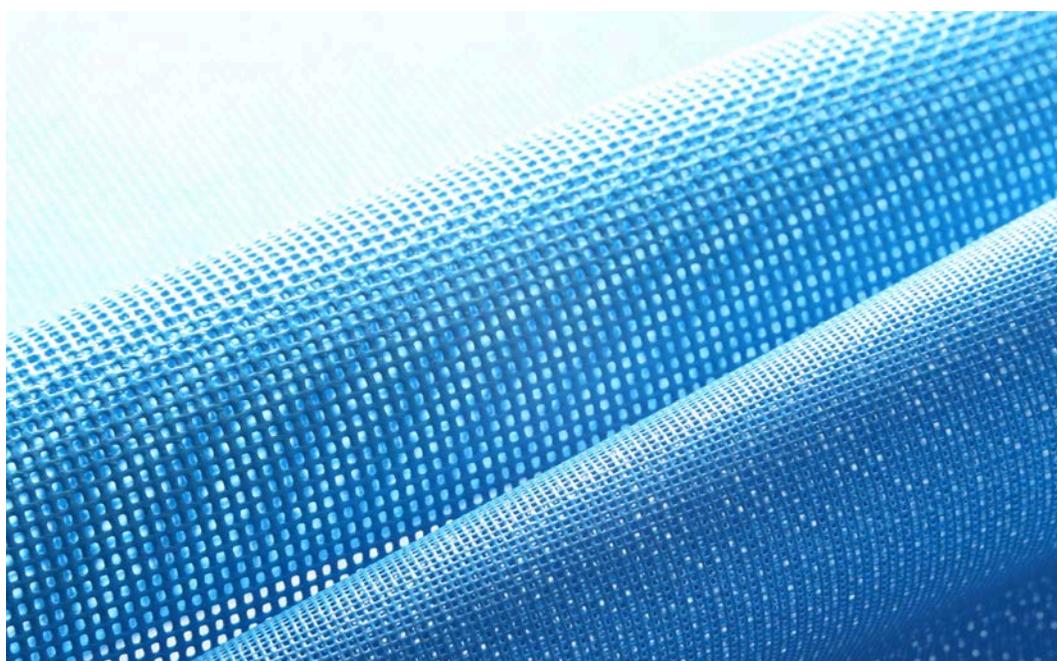


図8-2 BOD 排出量



### 【二酸化炭素排出量削減への取り組み】

2018年度のCO2排出量は、前年度比6.5%増の8,738t-CO2でした。また、環境中期計画の「原単位排出量(生産数量当たり)について、2020年度までに2017年度比3%削減」に対しては、5.8%増となり、目標達成出来ませんでした。主な要因として、草加事業所のガスCGSリプレイス工事期間中(9月~2月)の発電停止に伴う購入電力量増大の影響が大きかったことと、環境規制に対応すべく主要原料の切り替えに伴い、生産数量に加算されない試験加工が大幅に増加したことなどが挙げられます。

今期は、前期に実施した草加事業所のガスコージェネレーションの大型化更新や滋賀(タ)工場の熱媒ボイラの高効率型更新の成果が期待出来ます。

今後も成果重視の省エネテーマを模索して、CO2排出量の削減に取り組んで参ります。

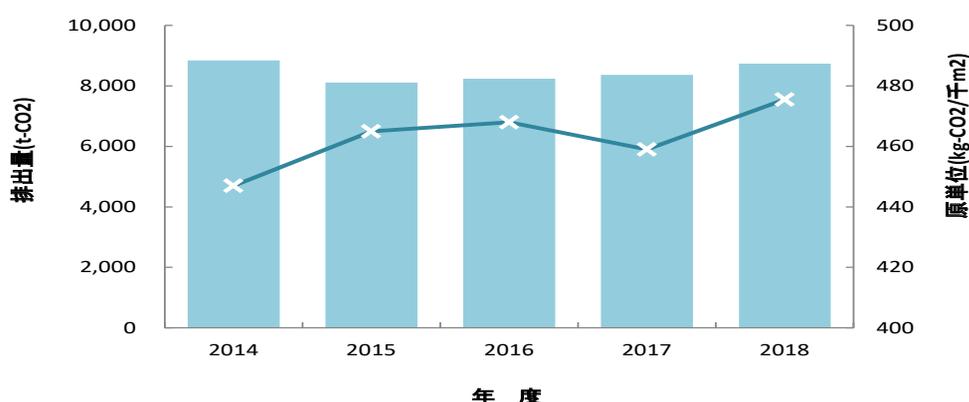


図8-3 二酸化炭素排出量

### 【産業廃棄物削減への取り組み】

2018年度の産廃処分量は1,234tで前年度比21.3%増加でした。主な増加要因は、PRTRの移動量増加と同様、年度末に長期保管在庫品を一斉に廃棄したことと、環境規制に対応すべく主要原料の切り替えに伴い、不要となる資材を処分したこと、更に排水処理施設の更新(性能アップ)により発生活泥量が増えたことなどが挙げられます。

目標40%以上のリサイクル率も前年度より悪化し、30.6%と40%を大きく下回りました。

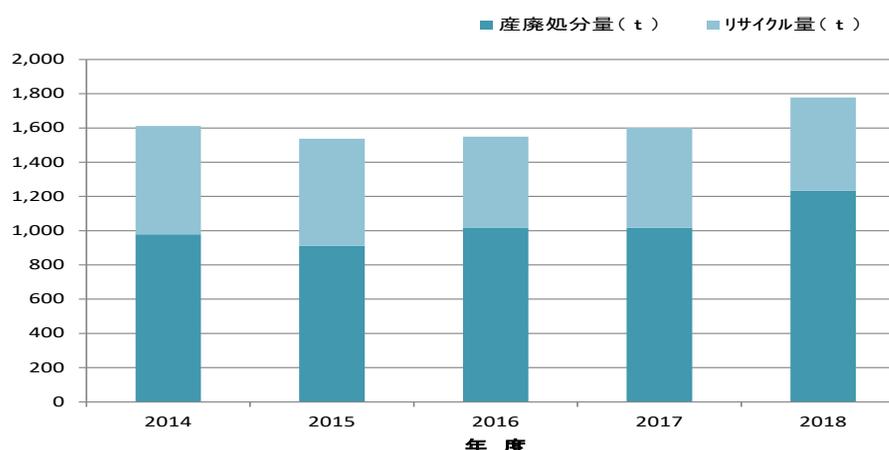


図8-4 産業廃棄物量

## 9. 環境対応製品

【タングステン放射線遮蔽防水膜材】

### シールドマックス®

規格：1030mm × 30m 乱

重量：1500g/m<sup>2</sup> (タングステン含有量：900g/m<sup>2</sup>)

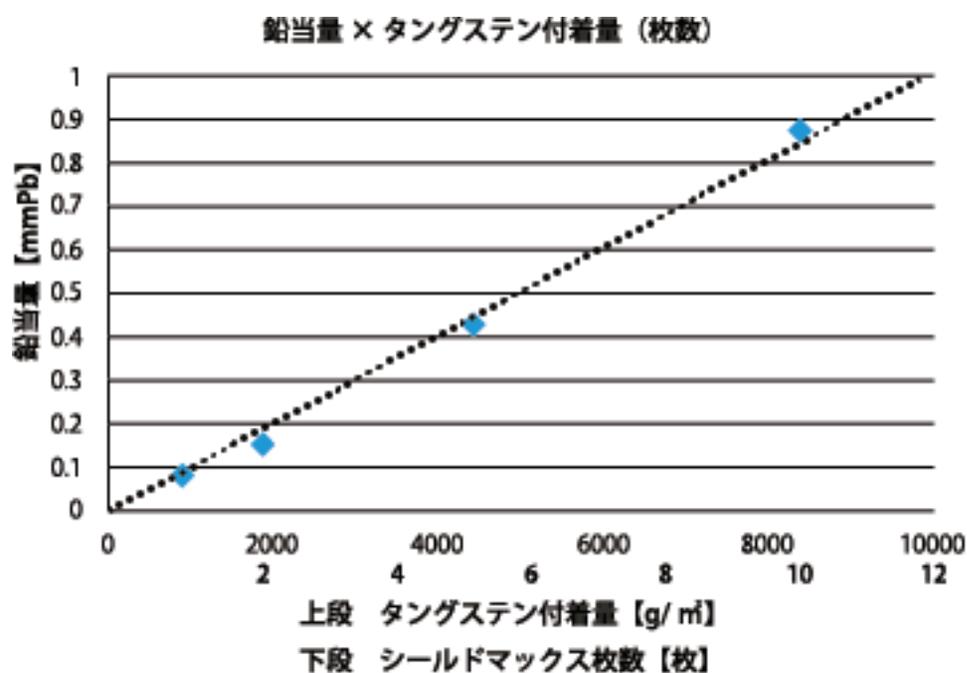
厚み：0.70mm

#### 【特 徴】

- 屋外で使用できるフレキシブルな放射線遮蔽防水膜材です
  - ・ 耐揉みスコット試験：30N × 1000 回条件で損傷無し
  - ・ 低温屈曲性：- 5℃条件で損傷無し
  - ・ 防水性能：40000mmH<sub>2</sub>O（高水圧法）
- 100kV のX線を約 50% 遮蔽します
  - ・ JIS Z 4501「X線防護用品の鉛当量試験方法」に準じて測定
  - ・ 鉛当量：0.08mmPb
- 防災設計が可能です
  - ・ タングステン層に防災性能を付与可能
- 建設現場用防音シートと同じ防音性能を有します
  - ・ ASTM E 2611「垂直入射音響透過損失」に準じて測定
  - ・ 弊社建設現場用防音シートと同等の性能
- 柔軟さを維持しながら大面積のシートを作れます
  - ・ 塩ビ製品で使用するウェルダ-溶着機、ライスターで接合が可能
- 性能・耐久性を維持しながら膜材の色を自由に選べます
  - ・ 屋外で長期間使用できる耐候処方設計が可能
- 有害重金属（Pb、Cd等）を使用していません



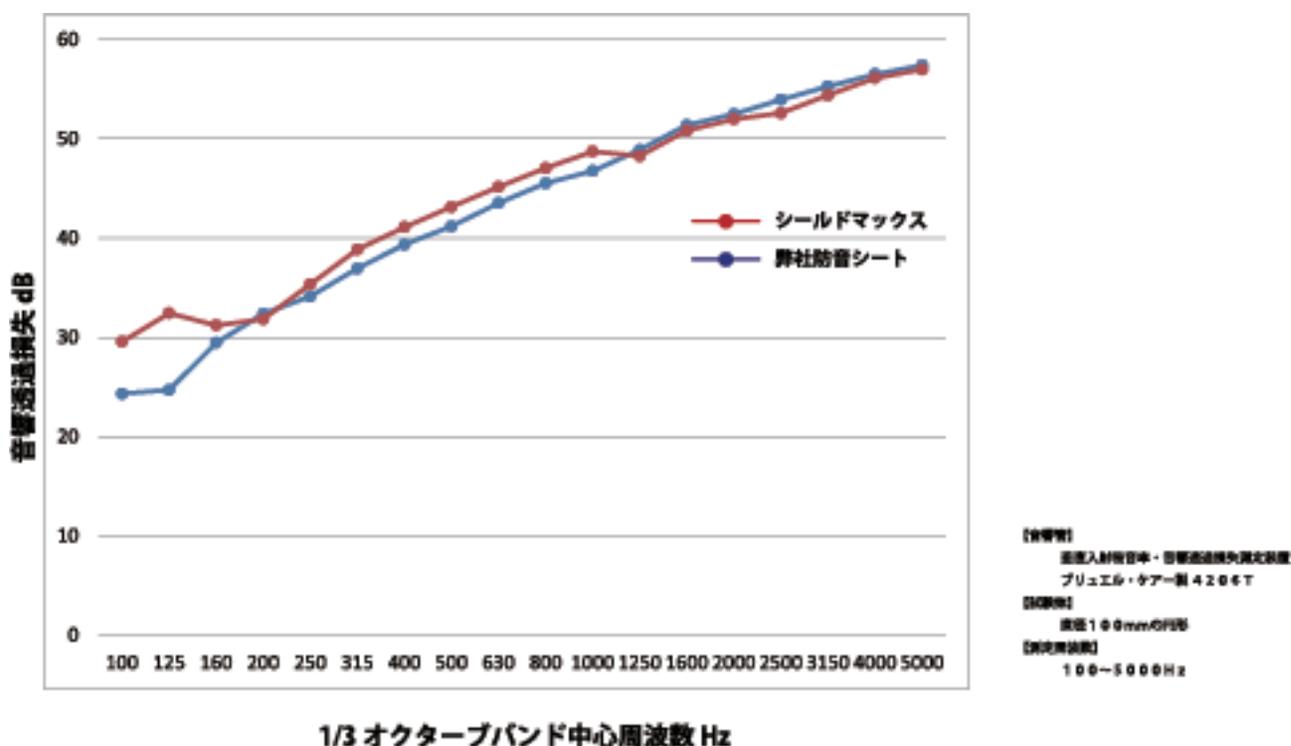
## X線防御用品の鉛当量試験方法 JIS Z 4501



測定機関 地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター

X線装置	エクスロン・インターナショナル社 MG-452型 (準直線管、焦点径法5.5mm、Ex30)
X線管焦点及び管電流	MG-452型 100kV 12.5mA 付加不透過 0.25mm Cu
測定器	電離線照射線量率計 東洋パディック社 RAMTEC-10000型A-4プローブ使用
試験日	2016.5.27

## 垂直入射音響透過損失 ASTM E2611



【音響室】  
垂直入射音響室・音響透過損失測定装置  
プリユール・ケアー製 4204T

【試験体】  
厚さ100mmのPS板

【測定周波数】  
100-5000Hz

測定機関 地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター